

本願寺の見どころ

龍谷大学
大宮学舎(重文)

江戸時代、西本願寺に設けられた「学寮」が始り。大宮学舎の「本館」は明治12年築。

2021年9月に修復を終えたばかり。桃山時代の豪華な荘飾彫刻。檜皮葺き唐破風の四脚門。別名「日暮らし門」、見事に日の暮れるのを忘れることから。門に彫られた麒麟(キリン)はキリンピールのマークのモデルともいわれている。

豊臣秀吉公が建てた「聚楽第」の遺構とも伝えられ、金閣、銀閣とともに京都の三名閣と呼ばれている。三層柿葺(にけらぶき)の樓閣。左右非対称の調和のとれた佇まいから名建築と評される。滴翠園(せせ)舟で渡り入る「舟入り口」。当時最上級のおもてなしだった蒸し風呂などがある。二層には三十六歌仙の絵図が描かれる。

「お西さんを知ろう！」

- 本願寺の見どころをお坊さんがご案内
- 毎日4回・予約不要
- 10:00~11:30~13:45~15:30~
- 法要期間中も30分くらい
- お茶所集合
- 東海教区のお坊さんも



大玄関門
唐門(国宝)

飛雲閣(国宝)

築地塀(重文)
切妻造・本瓦葺の版築の塀
5本の定規筋
江戸中期~後期

数多くの障壁画や欄間彫刻
四季折々の花・草木・様々な動物が描かれる
二条城の二の丸御殿と造りが似ている(書院造)
(白書院~折上格天井・床・付書院
連棚・帳台構 など)
国宝。
(現存する最古の能舞台)

南能舞台
虎溪の庭
ソテツが植わり、御景堂の屋根を借景に枯山水で虎溪を表す。

龍虎殿
リゅうこぞん
天邪鬼~
天水掛けに8体
少しずつ姿がちがう

御景堂(国宝)
寛永13(1636)年再建。
中央に親鸞聖人の木像
間口(正面左右)約62m
奥行約48m 高さ約29m
畳734枚
世界最大級の木造建築

大銀杏
樹令約400年
枝ぶりが地中の根の形。
火災から本願寺を守った逸話。
手水舎(重文)

阿弥陀堂(国宝)
宝暦10(1760)年再建。
本願寺の本堂。二木尊阿弥陀如来
間口45m、奥行42m、高さ25m
入母屋造(いりもやぶりの屋根)
畳492枚

安穩殿
あんのおん殿
お茶所
阿弥陀堂再建時、泉州の二門徒が10年に渡り大工さんにお茶の接待。当時のご門主は感謝のためにお茶所を建てられる。(207F)
以来お茶の接待が続いている。

太鼓楼(重文)
昔は大鼓で時を知らせていた。新選組が本願寺を屯所にしてた時には、見張り用に使っていた。当時の刃傷が残る。

天海僧正開版の「大蔵經(一切經)」が納められる。天海版又は寛永版とも。

総門(重文)
1711年、親鸞聖人450回遠忌に合わせて建立。高麗門形式。

春季特別展
「真宗と聖徳太子」
4/1(土)~5/28(日)

龍谷ミュージアム

伊東忠太設計(築地本願寺も)
明治28(1895)年
現在は僧侶の教化育成道場として

伝道院(重文)

正面通

東山の方広寺・豊国神社(京都国立博物館北隣)から東西にのびる通り。方広寺大仏の正面の意味でつけられた。間に東本願寺がある。

油小路通
江戸時代はメインストリートだった

浄土真宗本願寺派東海教区
季刊紙「とうかい」No.639
特集 No.39

バス乗降所
北境内地

聞法会館

ブックセンターはこちら。

埋木
木造建築の修復にすぎ間や割れ目を木片で埋める。大工さんの遊び

渡り廊下
歩くとき、ききき、と音がする